広報蕨　八七五号　令和五年七月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

輝いてます ひと

武州足立郡塚越村関東大権現幣帛の発見に尽力

髙橋 勝之（たかはし かつゆき）さん

調べて集めて　塚越の思いつなぐ

ボランティアで旧定正寺観音堂を掃除する髙橋さん

「機まつりの起源は、機神社のお祭りなんだよ」と教えてくれた髙橋勝之さん（78歳・塚越5丁目）。塚越の歴史を調べることをライフワークにしています。

30歳の時、荒れ放題だった塚越稲荷社を見て心を痛めた髙橋さんは、有志7人と「掃除の会」を立ち上げます。この活動から、参拝者や地元の人にとって心地よい空間にしたいという思いを募らせて、みこしの制作や庭の整備など、活動の幅をどんどん広げます。

定年退職を機に、参拝者に神社の解説をしてあげたいと考え、塚越の歴史を調べ始めました。元営業職の経験を生かして地元の家々を訪ね、貴重な資料を収集していきます。

そんなある日、塚越稲荷社境内にある機神社が老朽化によりゆがんでしまったため、奉賛会の皆さんと建て替えの準備をしていたところ、屋根裏からほこりだらけの木箱が出てきました。これが歴史的大発見。実は、機神社には徳川家康像が祭られており、当時は制作年代が不明でした。しかし、この木箱には享保（きょうほう）8年（1723）に機神社の前身である「関東大権現社（かんとうだいごんげんしゃ）」に授与された神事の道具「幣帛（へいはく）」だと記されていました。この発見により、徳川家康像が享保8年には塚越村にあったと証明されたのです。しかも、幣帛自体も、葉が付いたままの榊（さかき）の枝が現存しており、非常に珍しい貴重な資料です。徳川家康像と幣帛は、たちまち蕨市の指定文化財となりました。機神社への地道な活動が生んだ大発見。機神様からのプレゼントかもしれません。

毎月1日と15日に見学会を開催して、塚越や機神社の歴史と魅力を伝えている髙橋さん。「私が集めた資料が未来の誰かの助けになると思うと、ロマンがありますよね。」と目を輝かせていました。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蕨にあり

—No.86—

まるでスヤスヤという寝息が聞こえてきそうなほど穏やかな猫の寝顔。安らかで満ち足りた表情をしています。毛並みは版木を色抜きで摺る空摺（からず）りも用い、精巧な技法を駆使しています。なお本図と同じ図柄の錦絵が、ボストン美術館に二点所蔵されていることが分かっています。一点は背景が墨のぼかしとなっており、もう一点は団扇（うちわ）形の作品です。いくつか現存していることからも、当時人気の作品だったことがうかがえます。

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「眠り猫」　錦絵

yosai Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勧業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

河鍋（かわなべ） 暁斎（きょうさい）
天保2年（1831）
～明治22年（1889）

河鍋暁斎記念美術館 開催中

企画展「暁斎・暁翠　いきもの百科」展
同時開催　特別展「『絵本鷹かがみ』の世界」展

開　館＝午前10時～午後4時
休　館＝火・木曜日、毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円　高校生・大学生500円
小・中学生300円　65歳以上500円
※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳　細＝同館（☎441・9780）

展覧会の詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください

広報紙に載っている写真を希望者に差し上げます（一部を除く）　秘書広報課広報聴係までご連絡ください